

競技運営要領

栃木県高等学校体育連盟弓道専門部競技規則に基づき、弓道競技の運営について競技運営を次のように定める。

1 弓道競技運営組織と競技役員

(1) 組織図



(2) 競技役員(審判委員)の業務

① 運行委員長(大会部長)

射場、的前、場外(招集場所等)に関する業務の統括を行う。競技の運行責任者として競技が円滑に執行できるよう他の競技役員との連携を図る。

1) 引率者打合せ

- ・ 競技方法の説明、連絡をする。
- ・ 競技役員 の 分担、連絡をする。

2) 開会式

- ・ 「競技上の注意」連絡をする。
- ・ 補助役員への諸連絡をする。

3) 競技開始時

- ・ 競技方法を決定し連絡する。
- ・ 競射等での使用する射場、的を決定し連絡する。
- ・ 競技役員、補助員への準備連絡と確認をする。

- ・選手の招集状況の確認と選手へ競技方法(競技時等)の説明をする。
- ・進行委員への競技開始の連絡をする。

4) 競技中

- ・競技役員と連携し、競技を掌握し運営を行う。

5) その他

- ・閉会式の司会を行う。
 - ・悪天候時等、競技上の諸課題について、その業務を処理する。
- ※渉外関係は、総務で行う。

② 進行委員(射場審判員)

射場内での選手の行動を掌握し、発声によって円滑な競技を進行する。また、失の処理等に対応する。競技時間の計測、違反行為や失権、無効などの判断の他、的中確認など異議に対して対応する。

②-1 宣言と号令

1) 競技前(準備完了の連絡を受けて)

- ・適当な位置で脇正面に向かい。

- ・一礼。

- ・「只今から、〇〇〇〇を開始します。」

○…予選1回目 予選2回目 決勝1回目 決勝リーグ戦 個人の部決勝

決勝進出チーム決定のため競技 決勝トーナメント1回戦

団体優勝決定のため競技 個人順位決定のため競技 等

- ・一礼。

- ・元の位置に戻る。

- ・入場指示

2) 競技終了(選手が退場してから)

- ・適当な位置で脇正面に向かい。

- ・一礼。

- ・「以上で、〇〇〇〇を終了します。」

- ・一礼。

- ・元の位置に戻る。

3) 競技

(前立がない場合)

- ・「起立」

- ・「始め」

(前立がいる場合は、的前審判員の確認終了の手を挙げた合図で)

- ・「起立」

- ・「始め」

※選手は「起立」で椅子から立ち本座へ進み、「始め」で揖をする。

4) 団体決勝進出同中競技

- ・(選手が入場し、第1控に着席した後)「選手は、矢を1本持ってください。」

- ・「起立」

- ・「始め」

※選手は、4 矢持って入場し替矢(1 本以上)は監督(介添え)が持つ。競技 5 射目は、替矢を使用する。

※選手は1 射終わるごとに本座へ戻る。ただし、同中チームが多い時は一旦射場の外へ出るよう指示することがある。

※射場内の第2 控に着席の場合は、「選手は、第1 控に移動してください。」と発声する。

- ・(成績の確定「矢取り指示後」)
- 「只今の結果、第1射場 △中、第2射場 △中、よって〇〇チームの決勝進出が決定。」
- 「只今の結果、第1射場 △中、第2射場 △中、同中により競射を続けます。」
- ※放送では、チーム名と的中数を発表する。
- 「監督(介添え)の方は、選手に矢(替矢)を1本渡してください。」
- ※矢返しの矢(4本)は、進行委員(競技役員)から監督(または介添え)に渡す。
- ・「退場します。選手は、矢をすべて持ってください。」
- ・「起立」
- ・「退場」

5) 団体順位決定競射

- ・(選手が入場し、第1控に着席した後)「選手は、矢を1本持ってください。」
- ・「起立」
- ・「始め」
- ※選手は、4矢持って入場。替矢(1本以上)は監督(介添え)が持つ。競射5射目は、替矢を使用する。
- ※選手は1射終わるごとに本座へ戻る。ただし、同中チームが多い時は一旦射場の外へ出るよう指示することがある。
- ※射場内の第2控に着席の場合は、「選手は、第1控に移動してください。」と発声する。
- ・(成績の確定「矢取り指示後」)
- 「只今の結果、第1射場 △中、第2射場 △中、よって〇〇チームの(優勝)が決定、〇〇チームの(準優勝)が決定しました。」
- 「只今の結果、第1射場 △中、第2射場 △中、同中により競射を続けます。」
- ※放送では、チーム名と的中数を発表する。
- 「監督(介添え)の方は、選手に矢(替矢)を1本渡してください。」
- ※矢返しの矢(4本)は、進行委員(競技役員)から監督(または介添え)に渡す。
- ・「退場します。選手は、矢をすべて持ってください。」
- ・「起立」
- ・「退場」

6) リーグ戦、トーナメント戦

- ・(選手が入場し、第1控に着席した後)
- ・「起立」
- ・「始め」
- ※選手は、4矢持って入場。替矢(1本以上)は監督(介添え)が持つ。同中競射1射目は、替矢を使用する。
- ※選手は、行射が終わるごとに本座へ戻る。
- ※射場内の第2控に着席の場合は、「選手は、第1控に移動してください。」と発声する。
- ・(成績の確定「矢取り指示後」)
- 「只今の結果、第1射場 △中、第2射場 △中、よって〇〇チームの勝ち。」
(「〇〇チームが(優勝)、〇〇チームが(準優勝)と決定しました。」)
- 「只今の結果、第1射場 △中、第2射場 △中、同中により競射を行い(続け)ます。」
- ※放送では、チーム名と的中数を発表する。
- 「監督(介添え)の方は、選手に矢(替矢)を1本渡してください。」
- ※矢返しの矢(4本)は、進行委員(競技役員)から監督(または介添え)に渡す。
- ・「退場します。選手は、矢をすべて持ってください。」
- ・「起立」
- ・「退場」

7) 個人順位決定のための競射(射詰法)

- ・(選手が入場し、第1控に着席した後)「選手は、矢を1本持ってください。」
- ・「起立」

- ・「始め」
- ※選手は、4 矢持って入場。替矢(1 本以上)は監督(介添え)が持つ。
- ※選手は1 射終わるごとに本座へ戻る。ただし、選手が多い時は一旦射場の外へ出るよう指示することがある。
- ※射場内の第 2 控に着席の場合は、「選手は、第 1 控に移動してください。」と発声する。
 - ・(成績の確定「矢取り指示後」)
 - 「只今の結果、〇〇選手が優勝、〇〇選手が第 2 位と決定しました。」
 - 「只今の結果、同中により競射を続けます。」
 - 「只今の結果、的中した選手により競射を続けます。外した選手は、5)へ」
 - 「監督(介添え)の方は、選手に矢(替矢)を 1 本渡してください。」
 - 「大会規定によりの替えを行います。替えのため、退場します。」
- ※矢返し(4 本)は、進行委員(競技役員)から監督(または介添え)に渡す。
- ※ギリ粉等は、直径 24cm 星的になってから 4 射を射るごとに付けてもよい。(競技規則の例外)
 - ・「退場します。選手は、矢をすべて持ってください。」
 - ・「起立」
 - ・「退場」
- ※射詰の 5 射目以降は、直径 24cm 星的を使用する。替えのため 4 射終了後、選手を一旦退場させる。再入場の時は、立順を詰めて競射を継続する。9 射目は替矢を使用する。遠近競射を除き持ち的で競技を行うが、団体および個人競技の射詰競射の場合において、多数のチームまたは選手が残り、持ち的で競技ができない場合は、1 本ずつ選手は矢を持って入場し、行射後一旦射場の外へ出るよう指示する。持ち的になった場合の再入場は、選手は 4 矢を持って入場する。その場合は、5 射目に替矢を使用する。
- ※射詰 4 射目までにはずれがあった場合には、36cm 震的を継続して使用してもよい。

8) 個人順位決定のための競射(遠近法)
別に記述する。

②-2 処理事項

1) 弦切れ(替弦の場合)

- ・進行委員は、直ちに弓を取りに行く。(選手の弦の処理を待たない。)
- ・監督(介添え)または、進行委員が替弦を受け取り、弦を張る。(替弓の場合は、省略する。)
- ・進行委員は、弓を選手に渡す。(切れた弦などあれば預かってよい。)

2) 矢(筈こぼれ等)

- ・選手が、矢を処理し、右横前方に出した場合は、矢を受け取りに行く。
- ・最後の矢は、選手が持って退場する。競射等本座に戻る場合は、本座で他の矢と区別して床に置く。
- ※矢は、監督(介添え)に渡す。不在の場合は、退場の際に選手へ渡す。

3) 注意・失権・無効の場合

- ・立の前後、引き込みや他の競技者への影響が感じられる等、注意する必要の事由が発生した場合は、その時点で、選手に伝える。(但し、制限時間に関するものを除く)
- ・失権や無効となる事由が発生した場合は、関係する委員に連絡し、適切な処置を行う。

4) 行射の一時中断

- ・次の場合は、競技を中断し、競技の公正性や安全を確保する。
 - (的を修正(交換)する場合)
 - 的が動いた場合
 - 的紙が大きく開いてしまった場合
 - (矢を取り除く場合)
 - 他の学校の選手の矢が、的に倒れかかった場合、塚面に横になった場合
 - 幕にぶら下がった場合

- 進行委員、的前看的委員が必要と判断した場合
(その他)
 - 矢道や塚に障害物が飛来した場合や行射に障害となり得る場合
 - ・競技中断と再開の手順
 - 選手の行射の安全を確保して「次の取り懸けを待ってください。」
※計時を一時停止する。関係委員へ状況を連絡する。
 - 行射中の選手がいなくなったら「競技を中断します。」
※放送により、処理と状況を説明する。
 - 安全を確認し、「競技を再開します。始め」
※計時を再開する。
- 5) 競技時間超過の取り扱い
- 競技の制限時間を超過した場合は、直ちに「次の選手は取りかけを止めてください」と発声し行射を中止させ、競技時間が超過したことを伝え退場させる。ただし、次の選手が取りかけ後の場合は、そのまま行射させる。制限時間後に発した矢を確認し、記録および放送、集計委員へ連絡する。立終了後、時間を超過したことを放送で発表する。的中表示板は、制限時間以降に離れた矢に×を表示させる。
- 6) 異議申し立て
- ・関係委員へ連絡し、対応の依頼をする。
- ③ 的前看的委員（的前審判員）… 的中表示板の記録を絶対とする。
- 1) 的中審判手順
- ・的前看的委員は、一矢ごとに的中を判断し、あたり「○」かはずれ「×」の札を挙げて補助員へ提示する。
 - ただし、判断が難しい場合は、疑問「？」を提示する。（積極的に「？」を活用する。）
 - ※掃き矢や失による無効矢は、「×」とする。
 - ※制限時間以降の矢は、「×」とする。（行射も中止させる。）
 - ・看的補助員は、提示された「○」「×」「？」の札を確認し、的中表示板の表示を行う。
 - ※的前看的委員は、補助員へ事前にその作業手順を連絡、指導しておく。
 - ・的中(審判結果)と表示が一致していることを確認し、札を下ろす。
 - ・放送の「確認お願いします」の合図で、射場ごとに1名の役員が、的中数と的中表示板の内容が一致していることを確認する。
 - ・(確認結果が正しい場合)
 - 各射場の端で射場に向かって、手を挙げる。
 - ・(「？」の表示がある場合、誤っている場合または、異議があった場合)
 - 該当する的中の前で、発声し、合わせて「○」「×」の札を挙げる。
 - 「(訂正します) 確認の結果、第○射場、○的(てき)、○射目、あたり(はずれ)。」
 - 「(訂正します) 確認の結果、第○射場、○的(てき)、○中です。」
 - ※的中表示板に変更が必要な場合は、補助員が速やかに変更する。
 - ※的前看的委員は、あらためて的中数と的中表示板を確認する。
 - ※的中数のみを確認する場合は、札を使用せず、発声にて的中数を伝える。
 - ・放送の「矢取りお願いします」の合図で、補助員が矢取りを行う。
 - ※的前看的委員は、的中が動かないよう、矢が曲がらない様、矢取りの仕方について指導する。

2) 的中（あたりとはずれ）について

公益財団法人全国高等学校体育連盟弓道競技規則第 11 条に基づき判断する。

「あたり」「はずれ」の判定は、矢の根が的面を射ぬき、的枠内にとどまっているか否かによる。矢が折れた場合は、矢の根側の状態で判定する。	
あたり ○表示	「あたり」は、矢が的枠内にとどまった場合とする。ただし、次の場合も的枠内にとどまったものとし「あたり」とする。 (ア) 矢が、的枠の内側からの枠の外側に射ぬいた場合 (イ) 矢が、的枠の合せ目または的枠にとどまった場合 (ウ) 矢が、あたり矢に継矢となった場合 (エ) はずれ矢に接触して、的枠内にとどまった場合 (オ) 的が転び、矢が的枠内にとどまっている場合 (ケ) 的枠内にとどまっている矢の一部が、塚敷に接触している場合
はずれ ×表示	「はずれ」は、矢が的枠内にとどまらなかった場合とする。ただし、次の場合も的枠内にとどまらなかったとし「はずれ」とする。 (ア) 矢が、的枠の外側からの枠の内側に射ぬいた場合 (イ) 矢が、候串と的枠の間にとどまった場合 (ウ) あたり矢に接触して、的枠外に出た場合 (エ) 矢が跳ね返り、的枠外に出た場合 (オ) 掃きあたりの場合 (カ) 幕・防矢ネットなど障害物に接触した場合。
<p>・ 的枠内の判定基準</p> <p>「的枠内とは、的枠の外側の円内に矢が存在する事をいい、矢の外側の的枠が破断している場合は、的枠内とは考えない。しかし、矢が的枠正面からあたり、鏃の先端が的枠内に残っている場合は、矢の外側の的枠が破断している場合でも、あたりと判断する。」</p> <p>・ 的中の判断が、難しい時は、専門部役員または、複数の的前看的委員で協議し、決定する。</p> <p>・ 的中判定前到的設置の不備 ・ 強風などで的が転んだ場合は、その状況を判断して、有効か無効または再行射など裁定する。</p>	

3) 遠近競射の順位について、順位は、矢所(矢所とは、矢の最初の着点をいう)により、的の中心に近い矢を上位とする。ただし、順位決定にかかる場合で、同じ距離(的の中心から矢の中心)にある矢は、再度競射を行う。

- ・ 塚に届いた掃き矢は、全体での下位とし、的の中心に近い矢を上位とする。
- ・ 塚に届かなかった掃き矢は、全体での最下位とし、的の中心に近い矢を上位とする。
- ・ 筈こぼれや幕、防矢ネットなどで矢所が特定できない矢や射離されなかった矢は無効とする。順位にかかる複数の矢がある場合は、再度競射を行う。

4) 看的矢取り補助員について

- ・ 放送の「確認お願いします」で、看的所から出て、的の左側で蹲踞して待つ。
- ・ 放送の「矢取りお願いします」で、矢を抜き、看的所へ戻り、矢拭きを行って矢返しする。また、看的標示板の表示を戻す。(競射では、戻さない。指示を待つ)
- ・ 決勝や競射の場合は、的前看的委員の指示で、射場へ矢返しする場合がある。

5) 安全を確保するため、赤旗（警報ブザー）の掲出と撤去を実施する。赤旗（警報ブザー）の掲出が無い場合は、いかなる時も矢道や塚前に入ることを禁止する。また、取り懸けを禁止する。

- ・ 赤旗の掲出
 - 行射終了後、放送の「確認お願いします」の合図
 - 的前看的委員の指示を受けた場合（危険防止）

- 競技が終了または、整備のための前、矢道に立ち入る可能性がある時
- ・赤旗（警報ブザー）の撤去
 - 矢取り終了後、的前、矢道の安全が確保された時
 - 的前看的委員の指示を受けた場合（危険解除）

※赤旗（警報ブザー）は、前後で同時に実施されるのが望ましい。

④ 招集委員(弓具審判員)

- ・第3控または第2控でチームおよび個人(特に立順)を確認する。第1控に間に合わない選手がいた場合は、進行委員へ連絡する。また、弓具(弓、矢)や服装等についても、適切か確認し、不適切な場合は注意を与える。(県大会では注意のみとする)ただし、装飾品等は外させる。
- ・第3または4控から第2控に選手の誘導し、弓矢等の置場を連絡し、射場の状況から入場の指示を与える。
- ・入場の合図は、行射している選手のうち、最も遅い選手が一手(2本:4矢の場合)を引いた時に、入場させる。個人競射の入場は、別に記述する。
- ・競技の方法や行射の方法について、運行委員長とともに連絡や説明を行う。
- ・ゼッケンの回収のため、退場口にゼッケンの回収場所を設け、回収する。
- ・第1控の入場に遅れた選手は、その後の入場はさせない。

⑤ 記録委員

- ・個票用紙に記録を記入し、本部記録(冊子)を1部作成する。成績の他、選手変更の内容や順位まで記入する。
 - ・的前看的委員が的中を確認した後、的中標示板の記録が個票用紙に正しく転記されたことを、補助員の挙手で確認し、旗を揚げて、放送委員に矢取りの合図を送る。
 - ・記録委員は、補助員が正しく記入しているか観察し、作業手順について指導する。
 - ・補助員は、的中標示板を見ながら、個票用紙に的中の結果を転記する。
- ※射場が複数ある場合や表示が変更になる場合があるので、十分注意する。

⑥ 集計委員(パソコン)

- ・個票を元に、的中数、選手変更等を入力し、成績を集計する。
 - ・集計された成績は、決勝進出者等の抽出や名簿を印刷し、各委員へ連絡するとともに、掲示する。
- ※印刷：15部 本部5(委員長1、弓連役員2、総務1、大会部長1)、進行1、的前看的3、招集1
記録1、放送1、掲示1、予備2
- ・決勝等で使用する個票用紙を作成する。
 - ・選手の交代を受け付け、個票用紙に記入する。また、招集委員へ連絡する。

⑦ 放送委員

競技の状況を、選手その他の外部に放送によって発表する。発表する内容は、チーム、選手名や成績、競技方法等である。また、進行委員や的前看的委員の依頼により、的中の確認やその他の委員への連絡を行い競技運営を補助する。進行委員が放送委員を兼ねることができる。

1) 放送内容〈予選・決勝等〉

- ・「只今から、男子(女子)の部 予選(決勝) (1回目)を始めます。」
- ・チームの紹介と記録
 - 「只今の立、第1射場 ①番、②高校、第2射場・・・高校です。」
 - 「先ほどの結果、②高校 ○中、②高校・・・○中でした。」
- ※①プログラム番号または、抽選番号(全国総体団体のみ)、②は学校略称名
- ※個人名は紹介しない。但し、個人決勝や順位決定競射では、できるだけ紹介する。
- ※先ほどの結果は、1立後に発表する。最後の立と個人の成績はできるだけ発表する。
- ・的中確認と矢取り
 - (最後の選手が行射を終了し、弓倒し後、安全確認をしてから放送)「確認お願いします」
 - (確認が終了し、記録委員の旗が揚がったら)「矢取りお願いします」

2) 放送内容〈競射・順位決定〉

- ・「只今から、〇〇を決める 競射を始めます。」

○…決勝進出チーム 本大会出場校 本大会出場者 団体優勝チーム 団体準優勝チーム
団体第3位チーム 個人優勝 個人第2位 個人第3位

- ・チームの紹介

－ 「第1射場 ②高校、第2射場… …高校です。」

- ・的中確認と矢取り

－ (最後の選手が行射を終了し、弓倒し後、安全確認をしてから放送)「確認お願いします」

－ (確認が終了し、記録委員の旗が揚がったら)「矢取りお願いします」

※矢取り後、進行委員が結果を報告する。復唱するように。

- ・結果

－ 「只今の結果、同中のため、競射を行い(続け)ます。」

－ 「只今の結果、②高校 ○中 ②高校 ○中 よって、②高校が勝ちました。」

－ 「只今の結果、②高校 ○中 ②高校 ○中 よって、②高校の(優勝)、②高校の(準優勝)が決定しました。」

3) 放送内容〈リーグ戦・トーナメント戦〉

- ・「只今から、決勝リーグ(トーナメント)戦第〇試合を始めます。」

※トーナメントでは、1回戦第1試合～第4試合、準決勝第1試合～第2試合、決勝、とする。

- ・チームの紹介

－ 「第1射場 ②高校、第2射場 ②高校です。」

- ・的中確認と矢取り

－ (最後の選手が行射を終了し、弓倒し後、安全確認をしてから放送)「確認お願いします」

－ (確認が終了し、記録委員の旗が揚がったら)「矢取りお願いします」

※矢取り後、進行委員が結果を報告する。

- ・結果

－ 「只今の結果、同中のため、競射を行い(続け)ます。」

－ 「只今の結果、②高校 ○中 ②高校 ○中 よって、②高校が勝ちました。」

－ 「只今の結果、②高校 ○中 ②高校 ○中 よって、②高校の(優勝)、②高校の(準優勝)が決定しました。」

4) 放送内容〈異議申し立て等の放送〉

- ・「第〇射場 ○的 ○射目、確認をお願いします。」

- ・(的中数を確認する場合)「第〇射場 ○的の的中確認をお願いします。」

5) 放送内容〈大会結果〉

- ・「大会成績を発表します。男子(女子)団体の部 優勝 ○〇チーム 準優勝 第3位 でした。
個人の部 第1位 ○〇高校○○選手 第2位 ○〇高校○○選手 第3位 ○〇高校○○選手
でした。」

⑧ 庶務(大会部委員)

1) 競技前

- ・成績処理プログラム(データ)の作成する。
- ・プログラムの作成 ※プログラムを各校顧問宛にメール送信
- ・競技役員用プログラムの作成(進行、招集、記録(本部記録)、集計、放送)
- ・競技役員の方担表
- ・補助役員の方担表
- ・(賞状)

- ⑨ 広報委員（総務部）
- ・入賞者の写真撮影
 - ・報道機関への大会成績の報告（下野新聞、読売新聞、とちぎテレビ等）
 - ・大会報告書の作成（県高体連、栃弓連）
 - ・大会成績の管理

(3) 行射の流れ(一例)

選手	進行・放送	諸係
第3控		(招集) チーム名・選手の確認
第2控		(招集) 弓具・服装の点検
入場		(招集) 入場指示
第1控	・確認をお願いします (確認作業)	(放送)
本座	・起立 ・始め	(進行) 的前看的委員の挙手、確認終了 (進行)
射位(行射)	・矢取りをお願いします	・記録補助員の記入終了合図 ※手 ・記録委員の確認終了合図 ※旗(放送) (放送)
	・チーム紹介 (先ほどの結果)	・矢取りや的に異常が生じた場合は、計時を止め 競技を中断する。(放送) (放送)
行射の終了	・確認をお願いします (確認作業)	(放送)
退場	・起立 ・始め	(進行) 的前看的委員の挙手、確認終了 (進行)
	・矢取りをお願いします	・記録補助員の記入終了合図 ※手 ・記録委員の確認終了合図 ※旗 (放送)
		・記録の確定

2 開会式と表彰式次第

(1) 開会式（司会：総務） ※参加生徒(選手, 応援生徒)は全員参加

- ① 一同 礼（司会）
- ② 国旗に一礼（先導 部長または会長、委員長）
- ③ 優勝旗、優勝杯返還（部長または会長、委員長）
- ④ あいさつ（部長、栃木県弓道連盟会長(弓連主催)、委員長）
- ⑤ 競技上の注意（大会部長）
- ⑥ 諸連絡（司会）
- ⑦ 競技開始時間連絡（司会）
- ⑧ 一同 礼、解散（司会）

(2) 閉会式（司会：大会部） ※入賞者のみ参加

- ① 一同 礼（司会）
- ② 成績発表ならびに表彰
- ③ 講評
- ④ 国旗に一礼（先導 部長または会長、委員長）
- ⑤ 一同 礼（司会）

3 競技の順番について

競技の順番は、団体競技を優先し、上位大会の出場がかかる場合を先に、その後上位から決定していく

ことを原則とする。

ただし、射場の設営などの事情により変更することができる。なお、競技開始前に引率者打合せで確認する。また、必要に応じて、適当な時期に選手等を集合させ、ゼッケンの配布や競技説明を行う。

大会名	県高校総体	全国総体 団体競技	全国総体 個人競技	県選手権兼 関東個人予	全国選抜予	新人大会
競技順	予選 準決勝 決勝 団体順位 個人順位	予選 準決勝 決勝 1 回目 決勝 2 回目 団体順位	予選 準決勝 決勝 1 回目 決勝 2 回目 個人順位	1 回目 2 回目 (団体競射) 個人決勝 個人順位 団体トーナメント	予選 準決勝 (団体競射) 個人順位 リーグ戦	1 回目 2 回目 団体順位 個人順位

4 決勝および順位決定

(1) 決勝、順位決定における行射の方法

- ①行射は立位置の前から詰めて行う。
- ②行射人数が、的数より少なくなっても的は、そのまま残すが、不要な的は外してもよい。
- ③競射で使用する的は、会場の広さ、射場の数等を考慮し、決定する。
- ④遠近法の場合は、射場にとらわれず、選手数や入場に支障のない様配慮し、使用する的を選択する。また、複数の的、位置で同時に複数の順位決定の競射を実施することができる。
- ⑥多人数で遠近競射を行う場合、矢の破損を防ぐため途中で矢を間引くことがある。

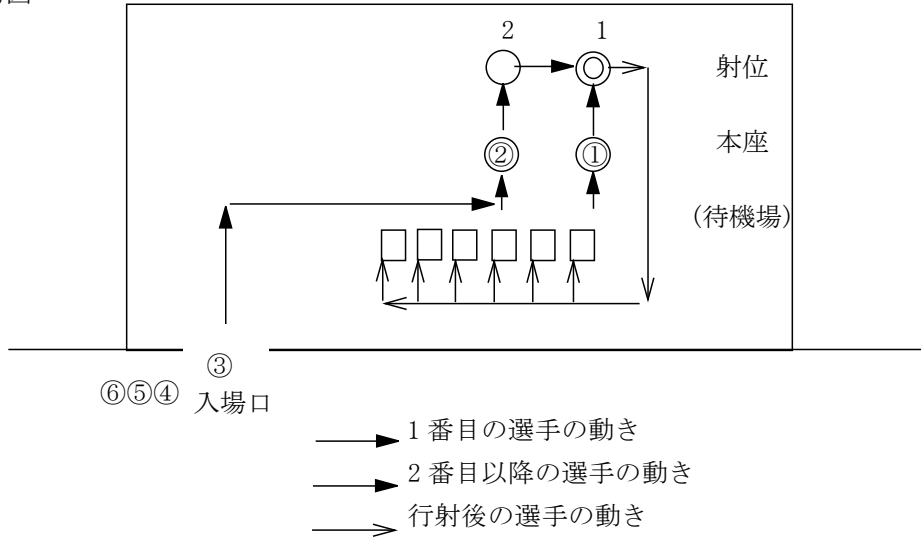
(2) 立順の振り分け方法

決勝および順位決定の立順、リーグ戦、トーナメント戦の組合わせは、次のとおりとする。

- ①団体および個人の決勝立順
別表 I
- ②リーグ戦の組合せ
別表 II
- ③トーナメント戦の組合せ
別表

(3) 競射(遠近法)の運行と行射の方法

① 会場図

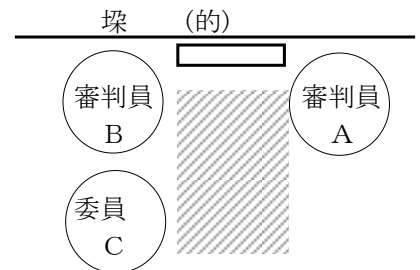


② 選手の動き

- 1) 1番と2番の2名(①, ②)が入場し、本座の椅子に着席する。
- 2) 進行委員の合図で起立をし、本座に進み、「始め」の合図で揖をして射位へ進む。
- 3) 進行係の「始め」の合図で3番(③)の選手が入場し、2番立の本座の椅子に着席して待つ。
- 4) 射終われば、(右)前へ進み、指示された椅子に着席して待機し、審判を待つ。
- 5) 次の選手は、弓倒しで筈を保ち、物見返しで弓を捧げ、閉じ足で足を閉じ、前の選手に合わせて第1的へ移動して行射する。椅子に座って控えている選手は、弦音で立ち、本座に進み、揖をして第2的の射位に移動して矢番えをして待つ。
- 6) 4番以降の選手(④⑤⑥～)入場は、弦音で入場し、2番立の本座の椅子に着席して待つ。
- 7) 以下、同様の要領で実施する。

③ 的前看的委員(審判委員)の動き

- 1) 的をはさみ、上座側に(A)審判員・下座側に(B)審判員が蹲踞し、その横に(C)的前委員が立つ。
- 2) (A)審判員が、上位の矢を指差し、(B)審判員が確認する。
- 3) (B)審判員が、左手で的を押え右手で矢を抜き、羽根を上にして(C)委員に渡す。
- 4) (C)委員は、矢を「左手」で受取り、羽根を上にして「右手」に持ち替える。
- 5) 最初の矢は、射付節の下辺りを持ち、射場から見えるようにかざしておく。
- 6) 同様にして、順次繰り返す。
- 7) (C)委員は、上位の矢から、順次、下へ10cm程度ずらして持つ。(最大5本が目安)
- 8) 確認後、(C)委員は射場に向き、「右手で矢をかざし」左手を腰前におく。



このゾーンは射場から見えるようにする。
審判委員の配置

- 9) その姿勢で矢道中央を通り、歩いて射場に向かう。(走らない)
- 10) 射場前端で進行委員と正対し、立った姿勢で、矢を指差し「上から上位です」と発声後、差し出す。
- 11) (C)委員をおかず、(A)審判委員が(C)的前委員の作法を行ってもよい。その場合は、4)以降、使う手が左右逆となる。

④ 進行委員の動き

- 1) 進行委員は、射場前端で(C)委員と立った状態で正対する。
- 2) (C)的前委員から差し出された矢を、「右手(左手でも良い)」で最上位矢射付節の上辺り(相手の拳上)を持つ。

- 3) 「右手(左手)で矢をかざし」脇正面に向き、さらに回り後方に待機する選手と正対する。
- 4) 矢を指差しながら「上から○位- ○位です」と発声する。
- 5) 「該当する選手は、(ゼッケンNo.)と学校名、名前を大きな声で発声して下さい」と言う。
- 6) 左手(右手)で筈を持ち、矢尻が右手(左手)の下にくるように持ち上げ、左(右)に少し倒す。
- 7) 射付節辺り(または、本矧の下)を持ち、右手(左手)から抜き出し、選手にかざす。
- 8) 該当選手が矢を確認し、(「ゼッケンNo.」)と「学校名」「名前」を発声する。
- 9) 確認後、順位を宣言し(「ゼッケンNo.」)と「学校名」「名前」を復唱し、該当選手に矢を渡す。
- 10) 同様にして、順次繰り返す。
- 11) 順位決定が終われば、「起立」・「退場」と宣言する。

⑤ 注意事項

- 1) 2名以上の委員で判定する。
- 2) 矢は必要な数のみ抜く。
- 3) 不必要な、矢の持ち替えをしない。
- 4) 多人数の場合は、途中で競技を中断し、順位に関係ない矢を取り除くことがある。

5 その他

(1) 射直しの要領(引き直しの判断も同様に処理する)

① 妨害を受けた場合に選手の矢が落ちた場合

- 1) 進行委員の指示により、落ちた矢を射直すことができる。
- 2) 射直しは、他の選手が引き終わった後に実施する。的中標示板は引いた順に表示する。

② 妨害を受けた場合に選手の矢が落ちなかった場合

- 1) 打起す前の場合は、進行委員の指示により、弓構えからやり直すことができる。
- 2) 打起こした後の場合は、そのまま射射を続ける。その場合、その矢があたりの場合は射直しをせずにそのままとする。はずれの場合は、進行委員の指示により、替矢を使用して、射直しは、他の選手が引き終わった後に実施する。的中標示板は射直した矢の場所に表示する。

③ 妨害した選手について

- 1) 無効とはしない。但し、再三の注意にもかかわらず改善されない場合は、故意によるものと判断し、妨害者の矢を無効とする。

④ 射直しおよび妨害の判断

- 1) 射場審判員(進行委員)の判断による。
- 2) 監督(介添え)による申し出により、競技役員が判断する。
- 3) 選手自身の申告は受け付けない。
- 4) 同一チーム内において妨害行為があっても、射直しおよび引き直しは行わない。

(2) 団体の部、選手の登録と交代について

① 県高校総体

本県大会では、参加申込書の受付時、補欠選手はチームに所属しておらず、どのチームにも出場できる。ただし、1チームにつき補欠選手を正選手として交代できるのは、1名であり、補欠に移った選手は、そのチームの補欠となる。

※1・2・3・4・5と登録した正選手を受付時に、補欠選手6と、2→6と選手交代した場合、2の選手はそのチームの補欠選手となり予選1回目は、1・6・3・4・5(補欠2)で行射する。その後、選手を交代する場合は、2の選手と1・6・3・4・5の選手との間で交代できる。

② 全国総体

本県大会団体競技では、参加申込書の受付時、補欠は2名受け付けている。しかし、チームの構成は、正選手5名、補欠選手1名となるので、補欠選手1名を正選手と交代した場合、もう1人の補欠選手は出場できない。その後、選手交代できるのは、正選手から補欠に移った選手のみである。

③ 県選手権兼関東個人予選

本県大会では、参加申込書の受付時、補欠選手はチームに所属しておらずどのチームにも出場できる。ただし、1 チームにつき補欠選手を正選手として交代できるのは、1 名であり、補欠に移った選手は、そのチームの補欠となる。

※1・2・3 と登録した正選手を受付時に、補欠選手 4 と、2→4 と選手交代した場合、2 の選手はそのチームの補欠選手となり予選 1 回目は、1・4・3（補欠 2）で行射する。その後、選手を交代する場合は、2 の選手と 1・4・3 の選手との間で交代できる

④ 全国選抜県予選、県新人大会

選手の交代はできない。

⑤ その他の注意事項

- 1) 同中競射からの選手交代は認めない。
- 2) 選手交代の申し出は、監督(引率者)が行い、生徒による申し出は受け付けない。
- 3) 選手交代できる回数等は、大会要項に記載する。
- 4) 団体競技、個人競技にかかわらず大会参加申込み時、4 名を 2 名、2 名の組に分けることはできない。

(3) 立ち札より前後にずれて行射している場合

- ① 前後の選手の行射に妨げになる場合、進行委員は当該選手に注意を与える。ずれの目安は的半分以上とする。また、立ち位置が正しくても、弓倒しなどで前後の選手の行射の妨げになる場合や、競技上の安全に関わる場合は、注意を与える。
- ② 半分以上ずれていても、前後の選手の行射の妨げにならない場合や同一チーム内の選手の場合は、注意を与えない。

6 表現について

(1) 射場・選手・的・矢の呼び方について

- ①射場 第1射場, 第2射場
- ②選手の位置 1番, 2番, 3番
- ③的的位置 1的(てき), 2的(てき), 3的(てき)
- ④矢 1射目, 2射目, 3射目、ただし、矢そのものについては、1本, 一手(2本), 4つ矢